長崎県作業療法士会ニュース「西海」第120号：令和8年8月発行

さいかい

2026.8
Vol.120
summer

contents

第32回長崎県作業療法学会報告
第33回長崎県作業療法学会広報
新人紹介
理事紹介
WFOT報告
キッザケアへ参加
小児リハマップ第5版
達人tell me　Series15
私の意味ある作業
総会報告

発行元：一般社団法人長崎県作業療法士会　事務局
長崎市東町1909　西川第1ビル101　代表　黒木一誠
企画・編集：長崎県作業療法士会　広報局

第32回 長崎県作業療法学会を終えて



２０２６年2月２８日(土)、３月１日(日)に第32 回長崎県作業療法学会が長崎大学医歯薬学総合教育研究棟で開催されました。

２日間で延べ２８３名の現地参加と 45 名のオンライン参加がありました。また今回、８名の学生の参加もありました。

今学会は「わたしとあなたのストーリー～作業療法がわたしに出会いをもたらした～」をテーマに掲げました。分野を問わず、全ての作業療法士には対象者とのストーリーがあり、また様々な出会いによって、そのストーリーはさらに豊かになる事を共有し、参加者1 人1 人の将来に繋がることを目指して準備して参りました。

特別講演、教育講演、シンポジウムでは、講師の先生方のストーリーをお話し頂き、先生方が３０年、４０年かけて得たものを、わたし達参加者は頂く機会となりました。

きっと参加者1 人1 人のこれからのストーリーに活かされるのではないかと思います。

そして特別企画では、学会のような「場」を将来に渡って繋いでいくため、「これからの長崎県作業療法士会について」をテーマに話し合いました。参加者が年齢も立場も関係なく、それぞれの想いを言葉にして下さったおかげで、その想いを共有することが出来ました。この「場」を共に作り上げてくれた参加者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。

最後に1 年半という長い期間、学会の運営を共に支えて頂いた実行委員の皆様、県士会理事の皆様、そして学会に携わり、ご協力を頂いた全ての皆様に、心より感謝を申し上げます。

今後も長崎県作業療法学会が、１人でも多くの方に携わって頂き、共に作り上げられるものであることを心より願っております。



第32回長崎県作業療法学会 学会長　岩阪真大
（医療法人昌生会　出口病院）

新たな事にチャレンジ！！





特別企画では、事前アンケートを行いました。会員、非会員に関わらずご協力いただいた293 名のアンケートの結果をもとにグループワーク、黒木副会長との意見交換会を行い、そして最後に沖会長にまとめて頂きました。改めて、「学会に参加をすることの意義」、「県士会という組織に属することの意義」について、立場も関係なく、皆がいち県士会員として共に将来について考える機会となりました。

一般演題では、セッション終了後にフリーディスカッションの時間を設けました。ブースを作ると、聴講者が発表者の下に集まり、とても和やかな雰囲気で質問や情報交換を行う様子が見られました。「マイクの前に立って質問をする勇気はないけど、これなら質問できる。」という声もあり、特に若手の皆様にとっては質問のチャレンジが行いやすかったのではないかと思います。





第32回長崎県作業療法学会



教育講演では、日本作業療法士協会から丹羽敦先生にご登壇いただき、「作業療法士のキャリア形成を支える生涯学修制度－わたしのヒストリーから得た学び―」をテーマにご講演をいただきました。丹羽先生のヒストリーを聴きながら、わたし達のキャリアや生涯学修、在り方について考えさせられました。



特別講演では、東登志夫先生にご登壇いただき、「作業療法における学術活動の未来構想」をテーマにご講演をいただきました。作業療法の将来について危機感を抱きつつも、今後の学術活動発展のため、わたし達に今何が出来るのかを考えさせられました。



シンポジウムでは、「わたしの歩み～20 代、30 代、40 代の経験が今につながる～」をテーマに淡野義長先生、琴岡日砂代先生、本村幸永先生にご登壇いただき、先生方のストーリーや様々な価値観に触れながら、わたし達の将来について考える貴重な機会となりました。



一般演題では、31演題のエントリーがあり、その中から最優秀演題1 名、優秀演題3 名を選出させて頂きました。
31人の皆様が演題発表して下さったおかげで、沢山の方が学びをいただく機会になったと思います。準備から発表まで
本当にお疲れ様でした。そして本当に有難うございました。



福祉用具では、『コミュニケーション支援機器展示・体験会』をしていただきました。



災害リハビリテーションでは災害時に使用される段ボールベッドの組立など、非常災害時に役に立つ各種道具の展示・紹介をしていただきました。

レセプションでは、59名の方が参加され、実行委員だけでなく、参加者の一人一人が盛り上げて下さったことがとても温かい雰囲気を作り上げていたように思います。
名刺交換も兼ねたジャンケン大会では、親睦を深めながらも景品の獲得に必死な皆様の姿が今でも目に焼き付いています。







第33回 長崎県作業療法学会

紡ぐ

― 伝統と創造 ―



会　期：2027年2月6日（土）～7日（日）

学会長：琴岡　日砂代（長崎県福祉保健部 長寿社会課）

会　場：諫早文化会館（諫早市宇都町9番2号）

学会長挨拶



第33回　学会長
琴岡　日砂代
（長崎県福祉保健部
長寿社会課）

第33回長崎県作業療法学会のテーマは、「紡ぐ－伝統と創造－」としました。
今回の学会では、時代や世代、分野を越えて、人や技を、未来へ繋げたいという想いで、このテーマにしました。
「紡ぐ」とは、日々の経験、出会い、感情、言葉などを丁寧に撚り合わせ、自分だけの物語や絆を創り上げていく行為と言われています。まさに、私たち作業療法士が、日々の臨床の中で対象者とかかわる際の「行為」に通じるものがあります。
シンポジウムでは、長崎大学で教鞭をとられた３人の先生方にご登壇いただきます。「あの時、あの先生と出会えたから、今の自分がある」。今回、お迎えするレジェンドの先生方は、多くの皆様にとって、そのような存在であり憧れの先生だと思います。
教育講演は４つのテーマをご用意しております。身障・小児・精神の３分野のシンポジストの先生方からは珠玉の名言をお聞きすることができます。もう１つは、「研究」という難しいテーマの話を分かりやすく紐解いてお話していただきます。
特別講演では、アメリカの学校で作業療法士としてご活躍されている先生にお話していただきます。アメリカの学校での作業療法の考え方を学び、日本の作業療法と融合させ、新しい形を創造していくきっかけにしたいと考えております。
多くの皆様と出会えることを楽しみに、多くの方のご参加をお待ちしております。

実行委員紹介



実行委員長
畑田　美恵



事務委員長
下濱　太陽



財務委員長
大川　由美子



広報委員長
吉田　将人



レセプション委員長
松尾　麻友



プログラム委員長
寺井　菜摘



特別企画委員長
松尾　みき



HP委員長
中村　ひかる



演題採択委員長
桑原　由喜

レセプション会場

会場：L&L　ホテルセンリュウ
住所：854‐0071　諫早市永昌東町13‐29
会費：6500円



@33NAGASAKIOTGAKKAI
学会　Instagram




JCHO松浦中央病院
藤原 大輔
患者さん1人1人に寄り添えるOTになる
長崎北病院
深堀 正敏
笑顔で頑張ります。
長崎北病院
大坪 蘭花
元気よく何事にも一生懸命頑張ります!
長崎北病院
原口 竜弥
オーダーメイドなリハを!!
長崎大学病院
溝上 芽生
患者さんに寄り添うことができる作業療法士になります。
宮崎病院
内山 実人
一生懸命
頑張ります!
長崎原爆病院
廣田 萌衣
患者さんの人生をサポートできるOTになる!!
愛健医院
山口 知佳
一生懸命
頑張ります
ようこそ! 長崎県作業療法士会へ
井上病院
横川 遥風
退院後を想像しながらリハを!!
佐世保中央病院
浦野 颯太
コミュニケーションとれるように頑張ります。
十善会病院
坂口 礼奈
一人一人に寄り添えるように頑張ります!!
長崎記念病院
大山 里奈
頼られるOTにこれるように勉強頑張ります!
岡 和廉
長崎リハビリテーション病院
「その人らしさ」に配慮した作業療法士になる
耀光リハビリテーション病院
才木 瀬菜
患者さんの心に寄り添えるセラピストになれるよう頑張ります
十善会病院
金山 桃子
頼られるOTを目指します。
長崎北病院
千葉 紘大
よろしくお願いします!!
長崎リハビリテーション病院
井上 莉奈
明るく笑顔で
頑張ります!


新人紹介
十善会病院
松下 沙耶
親しみやすいOTになる
十善会病院
山口 優奈
何事にも一生懸命
頑張ります!!
長崎北病院
志田 彩花
元気あります!!
長崎大学病院
凌 莉奈子
業務に慣れることを目標に
自分らしく頑張る!!
愛野記念病院
内田 彩椰
「自分に負けない!!」
池田病院
松尾 佳奈
患者様に信頼してもらえる
OTになりたいです!!
池田病院
本田 真大
患者様に寄り添った
OTになれるように頑張り
ます!
長崎北病院
小西 志穂
笑顔を忘れず、一生懸命
頑張る!!
田川療養所
真崎 美緒
笑顔で優しいOTになる
和仁会病院
川田 夏己
一人一人に寄り添い、居心地の良い
リハビリと空間を与えられる存在になる
十善会病院
矢吹 佳奈
楽しく頑張ります!!
三原台病院
谷塞 颯太
「思いやり」を忘れずに
関わる作業療法士
長崎大学大学院
牧山 穂花
頑張ります!!!
十善会病院
田上 咲笑
患者様に寄り添える
作業療法士を目指します。
長崎記念病院
下釜 空蘭
患者さんに寄り添った
OTになれるよう
頑張ります!!
耀光リハビリテーション
萩尾 悠
患者さんが安心した生活を
送れるようサポートします。
長崎百合野病院
多喜 風音
患者様に寄り添えるOTに
なれるより勉強頑張ります!!

令和8年度　長崎県作業療法士会　理事紹介

今年は黒木会長が新会長に就任し、4名の新理事が加わるなど、新たな体制となりました。

各理事からコメントを頂いていますので、ぜひご一読ください。



会長 黒木一誠　(井上病院)

今期より会長を拝命いたしました。理事として16年、様々な部局を経験させて頂きましたが、今期は、生涯学習制度の見直しを通して、会員の皆様への教育充実と職域拡大を進めるとともに、地域や行政、他団体との連携・協働を一層強化し、多様化する社会ニーズに柔軟に応える士会を目指していきます。皆様が日々の臨床や地域活動で存分に力を発揮し、笑顔で活躍できる環境づくりに全力を尽くしてまいります。長崎の作業療法の未来を、皆様と共に創っていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長　小中原隆史 (道ノ尾病院)



道ノ尾病院の小中原隆史です。今期も会長補佐を務めるとともに、倫理担当窓口として士会内の倫理対応体制の見直しに取り組みます。協会作成のチェックシートを活用し、未整備の課題を把握しながら、対応可能な事項から着実に整備を進めてまいります。近年は、医療専門職有資格者による不祥事が報道される機会も増えていると感じています。会員の皆様に安心して活動いただけるよう、倫理体制の充実に努めてまいります。

副会長　坪田優一 (長崎リハビリテーション学院)



この度、副会長を拝命いたしました。
理事として4期目を迎え、これまで地域局や事業局理事、県学会実行委員長、地域包括ケア対策部推進班班長など、貴重な経験をさせていただきました。これらは皆様に支えられて得られたものであり、私にとって多くの学びの機会となりました。これからは副会長という立場から、これまで培ってきた経験を生かし、本会のさらなる発展に尽力してまいります。微力ではございますが、会員の皆様とともに歩み、誠心誠意努めてまいります。
今後ともよろしくお願いいたします。

理事　福島浩満 (長崎医療技術専門学校)



今年度も引き続き事務局長を務めさせていただきます。新体制となり、新しい力が加わったフレッシュな組織へと変わりました。今期は、デジタル化できる部分の移行を進めながら、次世代を担う仲間たちのサポートや育成にも力を注いでまいります。これまでの経験を活かし、新役員の架け橋となって、誰もが安心して楽しく活動できる温かい作業療法士会を築いていきたいと考えています。今後も変わらぬご協力を、どうぞよろしくお願いいたします！

理事　光永済 (長崎大学病院)



このたび、長崎県作業療法士会 学術局理事として4期目を務めさせていただくこととなりました。これまで3期にわたり、多くの会員の皆さまや関係者の方々に支えていただきながら、学術局の活動に携わってまいりました。この経験を生かし、4期目も会員の皆さまの学術活動を支え、長崎県の作業療法の発展に貢献できるよう努めてまいります。
学術局では、研修会や研究助成事業の運営に加え、学会発表や論文作成など、研究活動への支援を充実させていきたいと考えています。
日々の臨床で得られた経験や実践を、学術活動を通して「見える形」にし、その成果を県内外へ発信していくことを後押ししていきたいと思います。また、所属施設や経験年数、専門分野を問わず、研究や学会発表について気軽に相談できる環境づくりを引き続き進めてまいります。初めて学会発表や論文作成に取り組む方にも、一歩踏み出しやすい体制を整えていきたいと考えています。学術局は、すべての会員の皆さまのための組織です。皆さまの声を大切にしながら、会員一人ひとりの挑戦を支え、長崎県から質の高い作業療法を発信できるよう取り組んでまいります。4期目もどうぞよろしくお願いいたします。

理事　亀屋祐喜 (菊地病院)



この度、県北地区理事および事業局担当となりました亀屋です。士会事業の円滑な運営と、地区会員の皆様をつなぐ架け橋となれるよう尽力いたします。経験浅い身ではございますが、地域のニーズに応える活動を目指してまいりますので、ご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事　原修平 (宮崎病院)



今期から理事2期目を迎えます。1期目は、広報局と県央地区を兼任させてもらいました。1期目では、対面形式の研修会を5回開催し、会員のスキルアップ、顔の見える関係性作りを目的に活動させてもらいました。2期目は広報局に専念し、県士会の活動を会員に発信するとともに、地域の方にも作業療法の魅力を伝えていきたいと思います。多様な変化が求められる時代の広報活動を楽しみながら取り組んでいきたいと思います。
今期も宜しくお願いします。

理事　中村和也 (長崎記念病院)



教育局理事として3期目を務めさせていただきます。皆さまにとって有意義な学びの機会が継続して確保されるよう、微力ながら努めてまいります。
昨年度より新たな生涯学修制度が開始され、来年度からは旧教育制度も新制度へ統合されます。まずは、登録作業療法士を目指すことが重要となります。OT協会では、会員の半数以上が登録作業療法士となることを目標に掲げています。
制度移行に伴う混乱を防ぐため、説明会などを通じて情報発信に努めてまいります。より良い教育環境の充実に向けて取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

理事　原田洋平 (長崎県福祉保健部長寿社会課)



理事5期目になります。今年度も事業局の一員として、県内の関係団体と連携し共同事業を担当いたします。事業局は地域包括ケア推進班、神経心理学的検査研修班、地域包括ケアに資する地域リハ専門職研修班、災害リハ班、子どもの地域生活支援班、歯科保健医療対策班で構成されています。
会員の皆様からのご意見を真摯に受け止めつつ、県内の多様な団体と協力し、会員の皆様にとって有益となる取組の充実を進めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

理事　鎌田秀一 (日見中央病院)



この度、理事3期目を迎え、引き続き事業局を担当させていただきます。今期は局内各班の円滑な運営を担いつつ、会員規模の大きい地域局（長崎）や、業務多忙な事務局へのサポートにも微力ながら尽力する所存です。気づけば理事のなかでも年長者となりましたが、皆様との調和を大切にしながら、与えられた任期を全うしたいと考えております。当法人の発展のため、皆様の輪に加わり精一杯努めてまいりますので、今期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事　平川樹 (池田病院)



今回2期目の地域生活推進局と県南地区理事を担当することになりました。地域生活推進局では、地域移動推進班・認知症対策班・福祉用具班の各班長と連携しながら、局の運営の補佐を行いました。県南地区では横のつながりを意識しながら、各福祉祭りなどへ参画しました。一人でできる事には限界がありますが、組織として皆さんと協力しながらであれば、どんなことでも挑戦できると思っています。今期も、皆さんの力をお借りしながら微力ながら頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

理事　日南雅裕 (佐世保北病院)



この度、理事として6期目となります。長きにわたり理事を務めさせていただいておりますが、とにかく初心を忘れず、県士会の発展に少しでも貢献できるよう邁進いたします。引き続き、よろしくお願いいたします。

理事　川口幹 (長崎リハビリテーション病院)



長崎地区理事として、5期目をつとめさせていただくことになりました。
昨年度、長崎地区で開催した県学会や地区連携会議でみえた課題や新たに得たつながりを活かしていければと思います。微力ですが、みなさんのお力添えをたくさん頂き、今期務めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

理事　朝里良太 (耀光リハビリテーション病院)



私はこのたび、県北理事として任命されました朝里良太と申します。臨床経験21年目を迎え、主に回復期リハビリテーション領域で身体障害分野に携わってまいりました。急性期や生活期（老健）での経験も踏まえ、現在は回復期セラピストマネジャーとして人材育成やチーム運営に関わっております。理事としては初めての経験で至らぬ点も多いかと存じますが、これまでの知見を活かし、地域に根ざした作業療法の発展と県士会活動の充実に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事　下瀧太陽 (JCHO諫早総合病院)



県央地区理事に就任しました、JCHO諫早総合病院の下瀧です。私自身、学会/士会活動に参加したことで、多くの先生方と知り合い、病院の垣根を越えた横の繋がりが広がりました。研修会で学ぶだけでなく、さまざまな活動や交流を通して多くの刺激を受け、自身の成長に繋がったと感じています。その経験もあり、県央地区でも「つながり」を大切に、気軽に参加できる活動を増やしたいと考えています。士会員の皆さんと一緒に県央地区を盛り上げていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

理事　畑田美恵 (大村共立病院)



県央地区理事を務めさせていただくこと8年。
この度5期目を迎えることになりました！大村共立病院の畑田です。
理事会にまた新しい仲間も加わり、体制も変わって、不安もちょっぴりありますが、同時に少しワクワクもしています。
理事の皆さんと、そして会員の皆さんと一緒に県士会を盛り上げていきたいと思っていますので是非、是非よろしくお願いします。
合わせて、第33回長崎県作業療法学会『紡ぐー伝統と創造ー』もよろしくお願いします！

理事　秋山謙太 (愛野記念病院)



この度、理事2期目を務めることとなりました秋山です。1期目は現状把握に終始し、表立った活動ができず悔しさを残しました。今期は県南地区の強みであった「顔の見える関係」を再構築し、地域全体を盛り上げたいと考えております。具体的には、若手～中堅向けに講演だけでなく症例検討会やグループワーク等の研究会を企画し、施設間の連携を強化できればと思っております。会員の皆様で学びや悩みを共有し、共に解決策を模索していける場を作ってまいりますので、ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

理事　田邊陽子 (長崎県上五島病院)



離島地区理事に就任いたしました、上五島病院の田邊です。私が新人の頃は、現在のオンライン受講はなく、集合形式の研修会が一般的でした。当時、新人教育プログラム（旧制度）の事例検討会では、片田美咲先生が来島され、上五島で開催して頂いたこともありました。そうしたこれまでの積み重ねや、県士会の後ろ盾のおかげで現在は、島内の学校、町役場、小値賀地区などから依頼を頂き、OTの専門性を生かした地域活動を行うことができています。今後は、離島地区理事として微力ながら県士会の活動に貢献できればと思っています。不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

WFOT Congress2026　Report

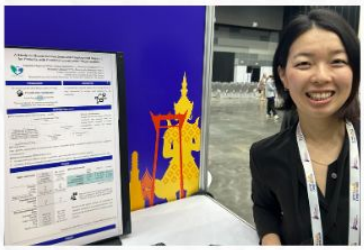
白十字会　燿光リハビリテーション病院　　北島春菜



今回、タイで開催されたWFOT（世界作業療法連盟）Congress 2026に参加しました。世界100か国以上から2,000名を超える参加者が集まり、日本からは175名が参加していたようです。学会テーマは「Inspiring Change, Innovating Future.（変化を刺激し、未来を革新する）」。新たな視点を受け入れ、未来へ進むための取り組みや各国の実践・研究が共有されました。

聞き慣れない言葉やさまざまな衣装、そしてあふれる人の多さに圧倒されつつも、胸が高鳴りました。病院から一人で参加した私は知り合いもほとんどおらず心細さもありましたが、「ここにいる皆さんが作業療法士なんだ」と思うと嬉しさが広がりました。思わず「日本から来ました。あなたは？どんな分野？」と声をかけ、あっという間に会場で顔見知りが増えていきました。

国や文化が違っても、さすがOT。みんな気さくで話しやすく、一度話した相手とは別の会場で会っても自然と手を振り合い、「このセッション面白そうだよ」「あの人も興味があると言っていたよ」など、すぐに情報を共有できました。そのおかげで人のつながりがどんどん広がっていきました。参加者の多くは大学の先生や論文・教科書で見かける方々。そんな方々とも知り合いになれたのは、国際学会ならではの特別な経験でした。本当に夢のような時間でした。


→ポスター発表の様子



今回の学会ではポスター発表で参加しましたが、1167演題という数に驚かされました。前回は口述発表だったため、ポスター形式は初めてで、しかもeポスターという新しい形でした。会場にはパソコンが設置され、各自が自分の発表を開き、その場にいる人へ説明する流れです。時間の区切りがないため、積極的に声をかけないと発表の機会を作れない状況でした。私は準備してきた内容をしっかり伝えたいと思い、多くの方に話しかけて説明し、相手の発表も聞かせてもらいました。普段より濃い交流ができたように感じます。前頭側頭型認知症の社会参加について発表し、日本の認知症医療への関心の深さを実感しました。

4日間の学会では、初日のオープニングパーティー、翌日のJAOTのお食事会、最終日のコングレスパーティーと交流の機会が多くありました。会場には軽食とコーヒーを楽しめるブースもあり、学びだけでなく世界中の作業療法士と語り合う時間がとても貴重な体験となりました。互いに臨床の喜びや悩みを共有し、次の目標を語り合えたことで、自分自身のステップアップにつながる大切な機会となりました。学会へ送り出してくださった職場の皆さんに、心から感謝しています。

キッザケアながさきに参加してみた

2026年2月1日（日）シーハットおおむらにて開催された「キッザケアながさき」に長崎県作業療法士会より県士会員を派遣し作業療法士ブースを担当しました。

「キッザケアながさき」は、介護人材の育成・確保を目的として、小・中学生に福祉・介護の仕事を身近に感じてもらい、その魅力を楽しく学んでもらう参加型体験イベントです。

今年は「介護・福祉の魅力を見つける冒険に出かけよう！」をテーマに開催され、約300名の子どもたちが来場しました。

参加した子どもたちは、次の4つのミッションに挑戦しながら、それぞれの専門職について理解を深めました。

MISSION 01
作業療法士
理学療法士
リハビリのチカラで
元気な体と笑顔を
取り戻す

MISSION 02
介護福祉士
やさしさのチカラで
みんなの生活を
支える

MISSION 03
管理栄養士
介護士
栄養のチカラで
健康な毎日を
支える

MISSION 04
看護師
看護のチカラで
命と笑顔を
守る

作業療法士ブースでは、子どもたちに楽しみながら作業療法を知ってもらえるよう、以下の内容を中心に説明や体験を行いました。

リハビリテーションとは何か
作業療法士は子どもから高齢者まで幅広い世代を支援していること
脳卒中という病気やその後に生じる症状について
生活をより送りやすくするための支援方法と自助具の役割
自助箸やボタンエイドなどの福祉用具の紹介
作業療法士になるための進路
作業療法士が活躍するさまざまな職場

子どもたちは実際に自助具に触れたり、説明を熱心に聞いたりしながら、作業療法士の仕事に興味を持つ様子が見られました。

今回の活動を通して、一人でも多くの子どもたちに作業療法士という職業を知ってもらい、将来「作業療法士になりたい」と思ってくれるきっかけとなれば幸いです。

今後も長崎県作業療法士会では、地域への啓発活動を通して、作業療法の魅力を広く発信してまいります。



☆小児リハMAP第5版発刊☆

小児リハMAPとは



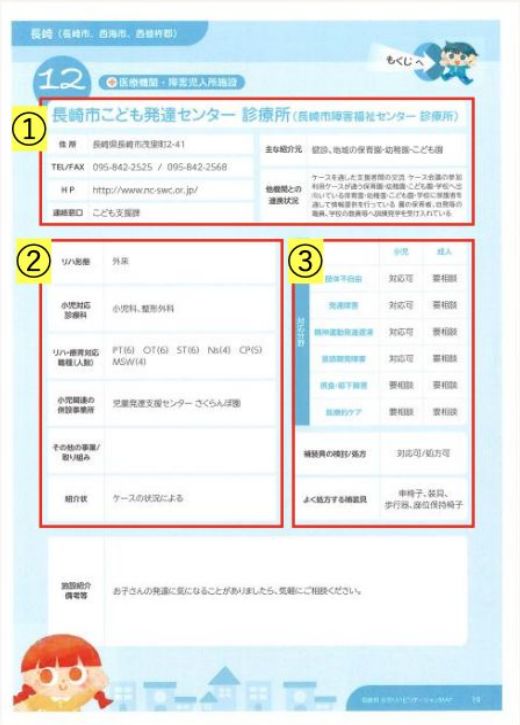
『小児リハMAP』は2004年に第1版の作成を開始し、小児分野の施設情報を容易かつ正確に取得できることを目的に発刊しています。今回の改訂では県内のPT・OT・STの3士会から選出された作業部会の委員を中心に作成されました。前回（2020年度版）と比較すると掲載されている医療だけでなく福祉分野での施設情報の数が増えていたりと、現状に合わせてアップデートしています。
リハMAPは各県士会のホームページよりダウンロードできます。

どんなことが書いているの？

今回の改定では「施設情報編」と「資料編」に分けて構成されています。
「施設情報編」は長崎県内各地域で小児分野における診療・相談・リハビリができる施設を掲載されており、利用したい本人・ご家族だけでなく、関係者にも参考になる内容となっています。「資料編」では小児リハビリテーションの支援内容を新生児から成人までの各時期で医療・福祉分野だけでなく、学校情報、装具類、就労などについて、具体的かつ実践的な情報を載せています。また手作りの支援機器の紹介や各施設での支援事例集も掲載しています。なお、「資料編」は令和8年8月頃に各県士会ホームページで掲載予定となっています。

施設情報編の見方

医療と福祉（通所・児童発達支援など）で掲載されている項目が異なり、それぞれの情報を正確に得られるようになっています。



▲「施設情報編」の例（医療施設）

【医療施設】
①住所などの基本情報に加え、「紹介元」「他機関との連携状況」を載せ、地域との連携を把握できるようになっています。
②対応診療科や併設の事業所を掲載し、利用者の入口として必要な情報となっています。
③対応分野に加え、補装具の処方を載せており、必要としている方に大切な情報となっています。

【福祉施設】
①基本情報に加え「送迎」「保護者同伴の有無」「個別リハの実施」について記載しており、利用者が選ぶうえで基準の一つとなっています。
②事業内容やスタッフの職種、取り組みなど施設の知りたい情報を載せています。
③支援内容・開所日・対応分野があり、実際の利用にあたり参考になります。

どんなときに、誰が使うのか？

相談、診察やリハビリを考えているご家族はもちろん、OTなどのセラピストにとっても大いに活用できます。小児分野でないセラピストであってもリハMAPを通して小児分野施設の情報を得て、必要とする本人・ご家族へ提案することができます。特に今回の改訂で通所支援事業などの福祉分野の施設の掲載数が増えているため、地域で生活するため連携を図るうえで情報を知ることができます。

達人
tell me
心を動かせ！

Series15

作業療法の未来を拓く：長崎県士会長としての歩み

沖 英一先生（一般社団法人 長崎県作業療法士会 前会長）



はじめに

このたびは、会員向け広報誌「さいかい」の企画「達人Tell me」にて、私のこれまでの活動に焦点を当てていただく機会をいただき、心より感謝申し上げます。私は「道を究めた」職人的なOT（作業療法士）というよりも、OTの専門性をいかに地域社会や行政に還元し、県民の生活をより良くできるかを模索し続けてきた一人の作業療法士です。本稿では、四半世紀にわたる士会長としての試行錯誤と、組織運営において大切にしてきたことをお話しさせていただきます。

任期の長さが意味する「組織の安定」と「継続性」

県士会長として、2001年から現在まで25年以上にわたり皆様と共に活動させていただいております。広報局の皆様からは「全国的にも任期が長い」という点に着目していただきましたが、これは私一人の力ではなく、志を共にする歴代の理事、局員、そして会員の皆様の熱意と支えがあったからこそ成し得たものです。
組織運営において、私は「安定性」を極めて重視してきました。任期が継続することは、一貫したビジョンに基づき、長期的な視点で事業を推進することを可能にします。この安定した基盤があったからこそ、私たちは行政や他職種団体との信頼関係をじっくりと築き上げ、OTの活動領域を確実に拡大してくることができたと考えています。

広域連携と「マネジメント」の継承

組織の力をさらに高めるためには、県内だけでなく、九州全体、そして日本作業療法士協会（JAOT）との広域的な連携が欠かせません。「九州作業療法士会長会」では、OTの未来を見据えた議論に参画し、長崎県士会としても次世代のリーダー養成研修会の企画・運営に携わっています。日本作業療法士協会長都道府県士会長会議（通称48会議）では、国の最新の動向とこれからの行動指針などを協議しています。私たちが培ってきた「作業療法マネジメント」の知見、つまり「目の前の対象者から、組織、そして地域全体までを俯瞰し、最適化する力」を若い世代に継承していくこと。それが、これからの私に課せられた重要な任務であると考えています。

地域に根ざしたOT活動と行政連携

会長として特に注力してきたのは、「地域におけるOTの存在価値」の確立です。私たちの役割は病院内でのリハビリテーションに留まりません。地域包括ケアシステムの中核を担う専門職として、住民の生活そのものに深く関わっていく必要があります。そのために、私は長崎県福祉保健部や長崎市福祉部の各種委員会に積極的に参画してきました。また、長崎市介護認定審査会職務代理者や、地域包括支援センター運営協議会委員などを長年務めております。こうした行政の会議に継続して参加することは、単に意見を述べる場ではなく、県士会が地域の課題を主体的に把握し、解決策を提示できる「なくてはならないパートナー」であることを示す重要なプロセスでもあります。

おわりに

作業療法は、対象者の「やりたい」を「できる」に変え、人生の彩りを取り戻す素晴らしい仕事です。 これからも、長崎県士会が会員の皆様にとっての研鑽と交流の場であり続け、同時に県民の皆様にとって最も頼りになる専門職集団であり続けられるよう、情熱を持って取り組んでまいる所存です。共に、長崎の未来を創っていきましょう。



九州の各県会長



体作りも、“意味ある作業”です。

私の意味ある作業

～フィジーク～

作業療法士 ＋ ボディメイク

作業療法士は、人々の“できるようになりたいこと”“できる必要があること”“できると期待されていること”といった意味ある作業への参加を支援する専門職です。その視点で振り返ると、私にとってフィジークに打ち込むことは、まさに意味ある作業です。

1 フィジークって何？

「健康的で引き締まった美しい身体のバランス」を競うボディコンテストのカテゴリーです。
特に全体のシルエットや逆三角形のプロポーションが重視され、ゴリゴリすぎない“”かっこよさ”がポイントです。

2 実は作業療法そのもの

解剖学・生理学・運動学の知識を活かし、日々の生活を客観的に評価し、筋肥大のための負荷設定、緻密な栄養管理、同じ目標を持つ仲間との合同トレーニングなど、いわば「自分に対する作業療法」を実践しています。



3 なぜ続けるのか？

・自分の変化が“見える”
・積み重ねが結果になる
・仲間と高め合える
・そして何より「自分を整える時間になる」

忙しい日常の中で、トレーニングの時間は
私にとって大切なセルフケアであり、
作業バランスを整える時間です。

4 大会という節目

大会はゴールではなく、“過程の証明”。
それまでの積み重ねの集大成であり、
大会までのプロセスが日々の生活に
大きな活力を与えてくれます。





フィジークという活動を通して得た学びは、臨床や日常にもつながっています。

これからも、
“意味ある作業”と向き合い続けます。

プロフィール

氏名：原田洋平
所属：長崎県長寿社会課
活動：長崎県作業療法士会理事
トレーニング・栄養・生活を整えながら、
日々ベストな自分を目指しています！

令和８年度定時総会が開催されました



総会の開会と成立

令和８年度定時総会は、6月20日（土）道ノ尾病院みちのおホールにて開催されました。
議長団としては、理事会より佐藤公紀氏（長崎リハビリテーション病院）が議長に推薦され、承認されました。
定足数の報告があり議決権を有する会員数951名に対し、今総会の出席者は556名うち会場参加（対面・オンライン）50名、議決権行使書提出125名、委任状提出381名（有効票363、無効票18）で定足数となる476名以上の出席を得て今総会は成立しました。
書記には宮原満次郎氏（三原台病院）、田淵慎吾氏（長崎北病院）が、議事録署名人として生田敏明氏（長崎リハビリテーション病院）、竹内明日香氏（和人会病院）が任命されました。

報告事項
１）令和７年度事業報告・決算及び監査報告

議案書に沿って沖会長より令和７年度より日本作業療法士協会新学習制度が始まりこれまでの生涯教育の研修会の実施や、OT協会が新たに構築する登録作業療法士制度の周知を行ってきたとの報告がなされ、今後の課題であるとの意見も述べられました。また、組織の現状と課題として会費の未納者や退会者の増加、組織率の低下が全国的にも問題になっているため、県士会は質を保ちながら組織率を維持していくことが大切であるとの意見が挙げられました。
各局の詳細な活動に関しては、各担当理事から議案書に基づき説明が行われました。
決算報告について福島事務局長より詳細な説明を行い、これを受けて永石博範監事から監査報告が行われました。フロアとWebからも意見や質問はなく、賛成多数で可決承認されました。

２）令和８年度役員選挙

上記の議題について中村選挙管理委員長より議案書に基づき説明がありました。
役員任期満了に伴い、立候補受付を令和8年4月11日から同年5月1日まで行い、立候補者及び推薦者数が定数以下であるため全員当選となりました。
任期は令和8年6月20日から令和10年度定時総会までであることを述べられました。
20年にわたり会長職を務めた沖会長に対してフロアより拍手が送られました。

３）令和８年度事業計画及び予算案

黒木新会長、各担当者から議案書に基づき説明がありました。
フロアの淡野氏から質問があり20数年ぶりに会長交代しており幹事も交代となる。新会長は組織力強化として内向きとしてどのような対策を行うのかとの質問がありました。

４）第34回長崎県作業療法学会学会長の選任

小中原副会長より説明があり、第34回長崎県作業療法学会は県北地区での開催となり協議を得て理事会の推薦により学会長として前川俊太氏を推薦すると報告がなされました。

その他
沖会長より長尾哲男氏の名誉会員としての推薦について説明される。長崎県作業療法士会会長を務められており、日本作業療法士協会の副会長も歴任され、長年にわたり作業療法士の職能確立や制度化に献身された。教育・研究の両面においても多大なる貢献を果たし、令和７年春の叙勲において瑞宝章綬章を受章された。以上の輝かしい功績に鑑み、本会定款第6条3項の定めに則り、長崎県作業療法士会名誉会員として推薦すると報告がなされました。
総会参加の都合がつかなかった長尾哲男氏の代理として牧野航氏が名誉会員証を受理され、後日、黒木会長から長尾哲男氏へ改めて授与されました。



新ノベルティができました！

エコバッグ

ロゴ入り





今回は普段使い出来るエコバッグを作成しました♪
ネイビー・ブラック・ボルドーの3色展開です！
各地区の健康福祉まつりや広報活動で配布予定です

ビックリマン風OTシール企画 第2弾！

素敵な名前を考えて下さり、ありがとうございました！

アイディアのご応募もありがとうございました！

名前またはアイディアを選ばれた方にはシール完成後、個別に郵送いたします！

＊今後、制作予定



この子の名前は…

チャーパ

になりました！

編集後記

さいかい120号はいかがでしたか？
今回のさいかいは、学会や総会の報告、次回学会のお知らせ
多方面で活躍されるOT紹介や、フレッシュな新人紹介、そして沖前会長から
県士会の皆様へお伝えしたいメッセージなど、
盛りだくさんの内容となっています。ぜひ最後まで一読いただけると嬉しいです！

菊地病院　亀屋祐喜
長崎労災病院　尾坂愛菜
自宅　上野　歩